

貧しき祈り

(歌は私の貧しい祈りです)

長光純

山路

武下一郎

朝戸出の心すがしも祈りごと胸に抱きて阿蘇を仰げり。

今日よりは強く生きむと秋の山朝の大阿蘇仰ぎたるかも。

天地よ物な言はせそこのまゝに泪ぬぐはず陽にたしめよ。

天地の不可思議思ふをもふゆわわれあり秋の陽に泪する。

深々と秋の空すみ山脈やまなみのかなたにしるし阿蘇のけむりは。

夕づく日眞赤き山に向ひ居て何を祈らむこのころぞも。

生きものゝ心あらはに見てありこの恐ろしさ嚮に目つむる。

月の夜のわが神経の尖りにも秋は冷たく觸れにけるかも。

しとくと霧の雨降る溪三里旅人は歌をうたひつ行けり。

しみくと旅人は兩手さし延べて岩間の清水うくるなりけり。

とつぷりと陽は暮れにけりひぐらしの悲しき聲に森過ぎ行けば